

安全データシート

明治Dr. オリゼスタークル箱粒剤

作成日: 2014年3月11日

改訂日: 2016年5月26日

1. 化学物質等及び会社情報

製品名: 明治Dr. オリゼスタークル箱粒剤
会社名: Meiji Seika ファルマ株式会社
住所: 〒104-8002 東京都中央区京橋二丁目4番16号
電話番号: 03-3273-0177
FAX番号: 03-3271-1460
緊急時の電話番号: 中毒110番
 <一般市民専用無料電話>
 大阪中毒110番(365日 24時間対応)
 072-727-2499 (情報提供料:無料)
 つくば中毒110番(365日 9時~21時対応)
 029-852-9999 (情報提供料:無料)
 <医療機関専用有料電話>
 大阪中毒110番(365日 24時間対応)
 072-726-9923 (1件につき2,000円)
 つくば中毒110番(365日 9時~21時対応)
 029-851-9999 (1件につき2,000円)
推奨用途及び使用上の制限: 農業用殺虫殺菌剤 農薬登録範囲外の使用は不可

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性:	自然発火性固体	区分外
	水反応可燃性化学品	区分外
	可燃性固体	区分外
	自己反応性化学品	区分外
健康に対する有害性:	急性毒性(経口)	区分外
	急性毒性(経皮)	区分外
	皮膚腐食性/皮膚刺激性	区分外
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分外
	皮膚感作性	区分外
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分2(肺)
	水生環境急性有害性	区分3
環境に対する有害性:	水生環境慢性有害性	区分2

上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない

ラベル要素

絵表示又はシンボル:



注意喚起語:

警告

危険有害性情報: 長期にわたる、又は反復ばく露による肺の障害のおそれ。
水生生物に有害。
長期継続的影響によって水生生物に毒性。

GHS分類に該当しない他の危険有害性: 有用生物類の蚕、ハチに対しても毒性が強いため、環境生物への影響に注意すること。

注意書き: 【安全対策】
粉じんを吸入しないこと。
必要なとき以外は、環境への放出をさけること。
【応急措置】
気分が悪い時は、医師の診断あるいは手当てを受けること。
漏出物を回収すること。
【廃棄】
内容物又は容器を廃棄する場合は、該当法規に従い、都道府県知事等に許可された産廃棄物処理業者に委託すること。
使用済みの容器は他の用途に使用しないこと。

以下の点については、GHS 分類結果より GHS ラベル要素は非該当であるが、取扱い時には注意する。

【安全対策】
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
保護手袋、保護眼鏡、保護マスク、保護衣を着用すること。
取扱い後は、手や顔等をよく洗うこと。
【応急措置】
飲み込んだ場合、口をすすぐこと。
吸入した場合、被災者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚に付着した場合、多量の水で洗うこと。
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
【保管】
容器を密閉し、換気の良い場所に保管すること。

3. 組成、成分情報

単一性品・混合物の区別: 混合物

一般名: ジノテフラン・プロベナゾール粒剤

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法	安衛法	
(RS)-1-メチル-2-ニトロ-3-(テトラヒドロ-3-フリルメチル)アニジン (別名 ジノテフラン)	2.0%	C ₇ H ₁₄ N ₄ O ₃	(5)-6767	8-(4)-1339	165252-70-0
3-アールオキシ-1,2-ベンゾイソチアゾール-1,1-ジオキソド (別名 プロベナゾール)	25.0%	C ₁₀ H ₉ NO ₃ S	(5)-3433	既存	27605-76-1
油脂類・鉱物等	73.0%	—	—	—	—

分類に寄与する不純物及び安定化添加物 : 情報なし

4. 応急措置

吸入した場合: 被災者を空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
気分が悪い時は、医師に連絡する。

皮膚に付着した場合: 汚染された衣類、靴等を速やかに脱ぐ。
付着した製品をぬぐい取り、水または微温湯で洗い流す。

<p>眼に入った場合:</p>	<p>外観に変化が見られたり痛みが続く場合には、医師の手当を受ける。 直ちに清浄な水で洗浄する。 洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水が行き渡る様に洗浄する。 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続ける。</p>
<p>飲み込んだ場合:</p>	<p>刺激が続く場合、速やかに眼科医の手当てを受ける。 水で口の中を洗浄し、直ちに医師の手当てを受ける。 無理に吐き出させない。 被災者に意識のない場合は、口から何も与えてはならない。 毛布等で保温して安静に保つ。</p>
<p>応急措置をする者の保護:</p>	<p>救助者は有害物質に触れないよう、手袋やゴーグル、マスク等の保護具を着用する。</p>
<p>5. 火災時の措置</p>	
<p>消火剤:</p>	<p>粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素、乾燥砂など。</p>
<p>特有の危険有害性:</p>	<p>火災時に有害ガスが発生するおそれがある。 過熱されると発熱を伴って急激に分解する成分を含んでいるため、いったん着火すると消火が困難になる。</p>
<p>特有の消火方法:</p>	<p>火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。 消火作業は風上から行う。 火元への燃焼源を断ち消火剤を使用して消火する。 周辺火災の場合、周囲の設備などに散水して冷却し、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移動する。 消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。</p>
<p>消火を行う者の保護:</p>	<p>適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。</p>
<p>6. 漏出時の措置</p>	
<p>人体に対する注意事項、保護具及び</p>	<p>屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。 漏出した場所の付近に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する。 作業者は適切な保護具(「8. 暴露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、飛沫、粉じん、ミスト、ガスなどによる眼、皮膚への接触や吸入をさける。</p>
<p>環境に対する注意事項:</p>	<p>河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。</p>
<p>回収・中和並びに封じ込め及び浄化方法・機材</p>	<p>飛散したものを掃き集めて、密閉できる空容器に回収する。</p>
<p>二次災害の防止策:</p>	<p>危険なく出来るときは、漏出源を遮断し、漏れを止める。 付近の着火源となるものを速やかに取り除く。</p>
<p>7. 取扱い及び保管上の注意</p>	
<p>取扱い</p>	
<p>技術的対策:</p>	<p>換気の良い場所で取り扱う。 屋内で取り扱う場合は、「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。 吸入や皮膚への接触を防ぎ、眼に入らないように適切な保護具を着用して取り扱う。</p>
<p>注意事項</p>	<p>必要なとき以外は、環境への放出を避ける。 容器を転倒、落下させ、衝撃を加える等の粗暴な取扱いをしない。 全体換気設備がある場所で取扱う。</p>
<p>安全取扱い注意事項:</p>	<p>取扱う前には必ずラベルをよく読むこと。 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。</p>

保管	<p>取扱い中に身体に異常を感じた場合には、直ちに医師の手当を受けること。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 接触、吸入又は飲み込まないこと。 眼に入れないこと。 取り扱い後は手足・顔などを石けんでよく洗い、洗眼、うがいをするとともに 取扱い時に着用していた衣服等は他のものと分けて洗濯すること。 本剤は皮膚に付着するとカブレを生ずることがあるので、万一付着した場合 には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。</p>
保管条件:	<p>密栓し直射日光をさけ、食品と区別しなるべく低温で乾燥した場所に保管 すること。</p>
容器包装材料:	<p>酸化剤並びに酸性の強い物質との保管は避ける。 金属又は樹脂容器、フレコン、ポリ内装の紙袋等。</p>
8. ばく露防止及び保護措置	
管理濃度:	3mg/m ³ (鉱物性粉じんとして)
許容濃度:	
日本産業衛生学会(2009年版):	<p>第一種粉じん 吸入性粉じん 0.5mg/m³ 総粉じん 2 mg/m³</p>
ACGIH(2010年版):	<p>油脂類 TWA 2 mg/m³ (固形パラフィンのヒュームとして) タルク TWA 2 mg/m³ (アスベスト不含、結晶質シリカ<1%)</p>
設備対策:	<p>取扱いについては、できるだけ密閉された装置、機器又は局所換気装置を 使用する。 取扱い場所の近くに、目の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。</p>
保護具	
呼吸器の保護具:	農業用マスク
手の保護具:	保護手袋
眼の保護具:	側板付き眼鏡またはゴーグル型保護眼鏡。
皮膚及び身体の保護具:	保護服、保護帽、保護長靴等
9. 物理的及び化学的性質	
物理的状態、形状、色など:	類白色細粒
臭い:	わずかな特異臭
比重(見かけ):	1.2g/cm ³
10. 安定性及び反応性	
安定性:	通常の貯蔵・取扱い条件(常温)では安定。
混触危険物質:	強酸化性物質、強酸
避けるべき条件:	加熱や燃焼により分解し、有害ガスが発生するおそれがある。
危険有害な分解生成物:	加熱や燃焼により分解し、有害ガスを発生する。
11. 有害性情報	
急性毒性:	<p>経口 ラット ♂♀ > 2000 mg/kg 経皮 ラット ♂♀ > 2000 mg/kg</p>
皮膚刺激性	ウサギ 刺激性なし
眼に対する重篤な損傷/刺激性	ウサギ 軽度の刺激性
呼吸器感受性:	知見なし
皮膚感受性:	モルモット 感受性なし
特定標的臓器毒性(反復ばく露):	区分1(肺)の非晶質シリカを10%未満含むため、区分2(肺)とした。

12. 環境影響情報			
生態毒性:			
魚	コイ	LC50	18 mg/L (96hr)
甲殻類	オオミジンコ	EC50	58 mg/L (48hr)
藻類	藻類	ErC50	>1000 mg/L (72hr)
<ジノテフラン>			
その他	ドブユスリカ	LC50	0.0721 mg/L (48hr)
		NOEC	0.00288 mg/L (27 日)
13. 廃棄上の注意			
残余廃棄物:	廃棄に当たっては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。		
汚染容器及び包装:	容器関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。		
14. 輸送上の注意			
国際規制			
国連分類	9		
国連番号	UN3077		
品名(国際輸送品名)	環境有害物質(固体)		
容器等級	Ⅲ		
海洋汚染物質	該当		
緊急時応急措置指針番号	171(低、中程度の危険性物質)		
国内規制	該当法令に従い、包装、表示、輸送を行う。		
輸送の特定の安全対策及び条件	輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。		
15. 適用法令			
消防法:	非危険物		
労働安全衛生法:	第 57 条の 施行令第 18 条 名称等を表示すべき危険物及び有害物 (シリカ 10%未満)(固形パラフィン 10%未満)		
	第 57 条の2 施行令第 18 条の2別表第9 名称等を通知すべき危険物及び有害物 (シリカ 10%未満)(固形パラフィン 10%未満)		
化学物質排出把握管理促進法:	非該当		
化審法:	第 2 条第 5 項優先評価化学物質 (プロパン-1,2-ジオール)		
農薬取締法:	登録番号第22417号		
16. その他情報			
引用文献:	自社データ		
<p>記載内容については現時点で入手した資料に基づいて作成しております。記載のデータ及び評価については必ずしも十分ではありませんので、取り扱いには注意して下さい。なお、注意事項等については通常の取り扱いを対象にしたものですので、特別な取り扱いをする場合には、さらに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取り扱い願います。</p>			